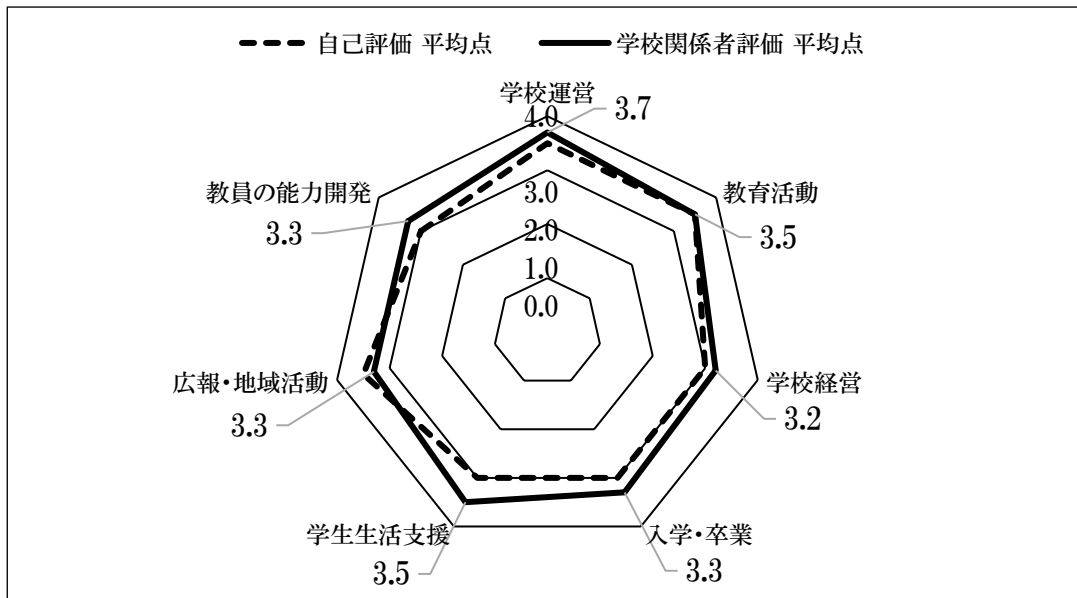


学校関係者評価結果

1. 評価日：令和3年3月30日～5月11日
2. 評価者：老人福祉施設の施設長、高等学校の校長、大学の教授、病院の看護部長、地域住民、卒業生（看護師）の合計6名
3. 評価内容：【学校運営】【教育活動】【学校経営】【入学・卒業】【学生生活支援】【広報・地域活動】【教員の能力開発】の7区分15評価項目
4. 評価基準：〈4. 当てはまる〉〈3. ほぼ当てはまる〉〈2. やや当てはまらない〉〈1. 当てはまらない〉の4段階評定
5. 評価結果：



1. 学校運営		自己評価	関係者評価
1) 病院の運営目標を踏まえ、学校の教育理念・目的・目標の達成に向けて学校運営方針を明確にしている。		4.0	4.2
2) 社会的な規範を守り、学校運営を行っている。		3.0	3.2
3) 組織全体の活性化に向けた取り組みを行っている。		4.0	4.0
4) 働きやすい職場環境を整えている。		3.0	3.3
総 評	<p>前年度の評価結果を踏まえ、学校運営に取り組んでいる。中でも、学生への関わりは、「看護学教員としての倫理的行動アンケート結果」に改善の成果が表れている。学校運営にあたっては、病院と連携して様々な会議で協議し、学校組織活動に活かされている。また、校務分担を明確にし、教職員間で連携し業務調整しながら、家庭との両立等、職員一人ひとりが働きやすい職場作りに努めている。</p> <p>看護師としての使命感、目標達成への強い意思、社会性、他者への思いやりと優しさを持ち、地域ニーズを探求し貢献できる人材育成は大変だと考える。しかし、最近の学生は、自己肯定感が低く、自己の強みを認識できていない者が多いと感じる。学生が自己覚知に向き合う時間、自信につながるような関わり方や指導を今後も期待する。</p> <p>【課題】</p> <p>学生が自己肯定感を高め、やればできることの自信がさらに学習意欲につながり、主体的に学び成長できるよう、関わり方を一工夫する。</p>		

2. 教育活動		自己評価	関係者評価
	5) 看護専門職を育成するために、教育方法を駆使しながら教育を実践している。	4.0	4.0
	6) 看護専門職を育成するため、教育内容の充実を図りながら実習指導を行っている。	3.0	3.3
	7) 看護師国家試験の合格率 100%を目指して、教育に取り組んでいる。	3.0	3.2
	8) 学生の主体性を育む取り組みを行っている。	4.0	3.7
総評	<p>コロナ禍での教育現場における大変な苦勞が想像できる。授業形態を変更し、オンラインや ICT 等を駆使した教育方法が工夫されている。様々な制限がある中で、主体的な学びを導くための e-ラーニングの導入、看護技術習得のための授業方法の工夫、解剖見学に代わる課題学習、iPad や視覚教材の活用等、学生が学習内容に関心を寄せ、集中して授業を受ける体制作りに対する教員一丸となつての取り組みは高く評価できる。コロナ禍が去つたとしても、新しい方法で学ぶ機会の提供、学生が自ら学びを深めるための環境整備は重要である。今後も ICT 活用の幅を拡大し、学生の成長への支援を期待する。</p> <p>授業案には指導内容が具体的に明示され、評価の視点も明確である。授業アンケートの結果を授業改善へと活かし、看護技術実技試験の結果は評価項目ごとに分析して次年度の課題を具体的に整理する等、指導と評価を一体化し授業改善につなげている。なお、技術実技試験評価表については、どの程度できれば「できた」とするのか、評価基準を示すことでより明確となると考える。</p> <p>臨地実習前の医療安全教育で、学生自身が考え、気づく視点を教員会議で検討していることは重要なことであり、実習生であっても人の命を危険にさらさない訓練は必要であるため、強化の継続を希望する。看護師国家試験の合格率は常に全国平均を上回っている。</p> <p>【課題】</p> <p>今後の教育のあり方を見据え、世代を超えて全教員が ICT をスムーズに使いこなせるように、教員へのサポート体制も整え、ICT 活用推進に向けて、教育環境整備の充実を図る。主体的な学びを導く教授方法開発を更に推進していく。コロナ禍で臨地実習が制限される場合には、実習指導者の協力を得てリアリティを再現できるような実践活動外学習方法を工夫する。看護師に必要な倫理観を高め、誠実に学ぶ態度を育てる。1 年次から段階的に国試対策 e-ラーニングを活用し、国家試験全員合格を目指す。</p>		

3. 学校経営		自己評価	関係者評価
	9) 適正な学校経営を実施している。	3.0	3.2
総評	<p>電力消費が大幅アップしているが、コロナ感染拡大防止対策として、夏季も冬季も窓を開け換気しながらの冷暖房使用のため、致し方ない。教職員の業務調整・業務協力により、超過勤務が大幅に削減できている。また、経費削減に努め、計画に基づき学校経営がなされている。</p> <p>【課題】</p> <p>ICT 活用による資料配布形式を整え、印刷資料費の削減に取り組む。また、ICT 活用のための設備投資に必要な予算計画は、母体病院と相談連携を図る。</p>		

4. 入学・卒業		自己評価	関係者評価
	10) 入学応募者の確保に努めている。	3.0	3.3
	11) 地域社会に貢献できる卒業生を排出している。	3.0	3.2
総評	<p>県内外の高校教諭と連携し高校訪問校を増やしたこと、コロナ感染症拡大防止対策を図りながらのオープンカレッジ開催の工夫が、県内外問わず受験生の増加につながり学生確保ができています。</p> <p>学年に応じ、医療職になるという将来の希望が持てるような支援を工夫している。国家試験に向けた学習、就職や進学へのアドバイスと、学生 1 人ひとりの能力や希望に沿った支援を引き続き期待する。</p> <p>【課題】</p> <p>コロナ禍に対応したオープンカレッジ開催、高校訪問、進路説明会での説明を一工夫し、受験生確保に努める。</p>		

5. 学生生活支援		自己評価	関係者評価
12) 学生生活が円滑に行えるよう支援している。		3.0	3.5
総評	<p>奨学金制度は、看護への道を目指すことを保護者も安心して見守ることのできる制度であり、その周知もできている。スクールカウンセリング等、学生の心身の健康への取り組みも引き続き期待する。</p> <p>【課題】 コロナ禍における学生の家庭の経済状況を把握し、タイムリーな奨学金情報を周知し支援に努める。学生が抱える悩み等、スクールカウンセラーの協力を得て、メンタルサポートを強化する。</p>		

6. 広報・地域活動		自己評価	関係者評価
13) 学生を知ってもらうための広報活動を積極的に実施している。		3.0	3.3
14) 地域社会に貢献できる活動を行っている。		4.0	3.2
総評	<p>学校関係者に限らず、ホームページに興味をもって見ている人もいるので、地域に開かれた学校運営という点で、引き続きタイムリーな情報発信を希望する。コロナの影響で、計画通りにいかないジレンマを学生も感じていたと思うが、コロナ禍だからこそ人と関わり、命と向き合う看護専門職を目指す者として感じたことや、当たり前だった生活が当たり前でなくなった時に気づいた自己の感情を大切に忘れずにいてほしい。</p> <p>【課題】 ホームページの適時更新及び内容充実を図る。まずは学校近隣の地域ニーズを把握し、学生が今自分達にできることを見つけて行動に移していけるようサポートしていく。</p>		

7. 教員の能力開発		自己評価	関係者評価
15) 教員の能力向上に対する取り組みを実施している。		3.0	3.3
総評	<p>詳細な授業案を立て、学生の反応、成績結果から分析し、次年度の課題が具体化できている。研修はWEB開催となったが、教員は継続し研修等に参加できている。</p> <p>【課題】 学会発表又は紀要投稿できるよう計画的に取り組む。教員能力開発プログラム TANADO を効果的に活用し、キャリアアップを図る。</p>		